

J R南武線連続立体交差事業に関する地域勉強会（第6回）

日 時：平成29年 9月20日（水）
18時00分～

場 所：中原区役所 5階 第501会議室

次 第

<開 会>

- 1 第5回の主な意見と基本的な考え方について . . . 資料1
- 2 課題解決に向けた取り組みについて . . . 資料2

<閉 会>

第5回の主な意見と基本的な考え方について

1 平成 28 年度勉強会内容の確認について

2 連続立体交差事業に関する有識者への意見聴取の結果について

① 有識者意見に将来の人口減少に関する視点がない。今後高齢化が進展していく中で、駅までのアクセス改善が重要であるが、早く事業をしなければ効果が低くなってしまいう懸念がある。沿線のまちづくりについては、昨年度の勉強会において皆で考えていこうとの結論となっていて高架と併せてまちづくりをどのようにしていくか、前向きな議論をしていきたい。

⇒有識者から人口減少に関するご意見はいただいておりますが、人口推計などを考慮しつつ、連続立体交差事業と併せて駅利用の促進につなげられる施策も行いたいと考えています。現在は、定時性確保が困難なため、各駅にアクセスするバスが少なくなっておりますが、踏切解消によりバスの増便など交通利便性の向上や、連続立体交差事業を契機にして、駅周辺に生活利便施設を整備するなどの検討をしていきたいと考えております。

② あまりにも事業期間が長すぎる。もう少し早く進めることはできないのか。

⇒事業区間は川崎市域だけでも 4.5km と長く、影響する敷地も多いため、一定の期間を要してしましますが、なるべく早く完了できるように進めていきたいと考えています。

③ 事業期間を左右する用地買収についても、地域としてもできるだけ協力していきたい。踏切を無くし、住みやすく子育てしやすいまちを目指す中で、どのようにすれば将来沿線に住む方々の生活に役にたつのかとの視点で議論すべきである。次世代のため、どういうまちにしていきたいのかを考えることが大切ではないだろうか。

④ 中原区の北側は高架化済であるが、まち全体に一体感があり、高架化の効果は事業化前には想像できないほど大きいものであった。

⑤ 昨年の現場視察で高架下の活用状況を見てきたが、高架下を市が安い賃料で貸すなどして、個人事業主が出店し易いよう働きかけをしないと、結局大手チェーンの店舗ばかりとなり、まちの個性に欠けてしまうことになる。

⑥ 行政で無償利用できる高架下部分の割合を、地域貢献の一環として、既存の 15%から高められないか鉄道事業者とも協議して欲しい。

⑦ 北林先生の意見で、「マンションに対する影響評価は高架化後の高さで行う」とあるのは、どのようなことを意味しているのか。またマンションに近接する戸建住宅に対して、マンションからの反響音の影響については特に意見がなかったのか。

⇒通常、騒音の影響評価は地表面から一定の高さで予測しますが、高架化により音源の位置が高くなることを考慮し、適切な高さで予測する必要があるとの意見をいただきました。また、マンションからの反響音についてのご意見はいただいておりますが、それぞれの場所や状況に応じて、適切に対応していきたいと考えています。

⑧ 同じく北林先生の意見で、「線路の両側を歩行者が行き来することができる道路は、一定の間隔が必要である」とあるが、鉄道事業者が高架下の 85%を確保すると、現在の踏切部分以外で横断できる箇所があまりなく、事業効果も小さくなってしまわないか。

⇒今後の鉄道事業者との協議事項になりますが、道路整備でなくとも店舗等の建物内を通り抜けできるようにするなどの対応も考えられるので、適切な間隔で通り抜けができるよう検討していきます。

- ⑨ 高架下の利用割合で鉄道事業者が 85%、川崎市が 15%の算定については、現在の道路を除いた土地の部分についてでいいのか。

⇒高架化され新たに活用できる面積に対し現況で川崎市が所有している踏切などの道路部分を除いた面積の 15%が川崎市で利用できるようになります。他地区では、新たに整備する歩道部分を 15%の算定対象に含めなかった事例もあり、詳細については今後の鉄道事業者との協議によります。

3 南武線沿線のまちづくりについて

- ① 南武線沿線まちづくり方針の策定のスケジュールはいつ頃を見込んでいるのか。

⇒パブリックコメント等の手続きを経て、平成 30 年 3 月策定を予定しています。

4 南武線の現況と課題について

- ① 鹿島田駅周辺は、商店街だけではなくまち全体が分断されている。近くに避難所となる学校などが無い。また選挙の投票所についても近くに確保できないため公会堂で行っているが狭くて大変である。

- ② 選挙の投票所の問題は長年の課題であり、以前は鹿島田の再開発で確保できないのかとの話もあったが、確保できないまま今に至っており、今回の整備に併せてなんとか整備して欲しい。

⇒投票所については、今後各駅周辺のまちづくりを検討していくなかで、どのような機能を誘導していくのかを検討する際の参考とさせていただきます。東西の連携や避難スペースの確保などの課題については、連立事業を契機として地域の方々が使いやすい駅前の方などを地域の皆様で検討していただき、市がご協力できる部分については前向きに対応していきたいと考えております。

- ③ 向河原駅東側の商店街は道路が狭く、小学生の通学時間帯には一方通行の規制をしているが、個別の対策ではなく、駅周辺を一体的に再整備する計画を作るなどにより抜本的な課題解決を図って欲しい。

⇒PTAなどからもご指摘をいただいておりますが、商店街として建物が立ち並んでおり、この道路を拡幅することは難しいと考えております。この連続立体交差事業を契機に、長期的な取組として地域で再開発事業などを検討することにより、課題解決が図られる可能性もありますので、皆様と一緒に検討していきたいと考えております。

- ④ ガス橋通りの平間踏切から国道 409 号の間の道路が狭く、危険なので、その部分だけでも早く整備して欲しい。

⇒南武線の連続立体交差事業と同時に道路整備を考えていますが、早期に対応できる部分については、前倒しでの整備についても検討していきます。

5 その他意見

- ① 高架下を町内会の会館として利用したいと考えているが、JRは東急などの私鉄と比べて借地料が高額だと聞いている。せっかく生まれる空間なので、市民が利用しやすいような借地料や手続きなどをJRと協議してほしい。

⇒今の段階では、高架下の土地利用について具体的な話はできていませんが、事業が一定程度進んだ段階で、このようなご意見があったことを伝えたいと考えています。

- ② この事業で移転が必要となる地権者への対応はどうなっているのか。説明会はいつ頃開催する予定なのか。

⇒来年度から用地境界を確定する測量作業を予定しており、その際には、なるべく少ない人数での説明会を開催するなど、個別に対応していきたいと考えております。

- ③ 南武線が新幹線と交差する部分の高架下の高さがあまり取れていないが、この部分は活用できないのか。
- ⇒計画段階ですが、ご指摘の新幹線の高架下の空間を活用して、歩行者と自転車が武蔵小杉駅の南口にアクセスできるような整備を予定しております。